

Q&A 先月の技術相談から

研究支援職員の仕事とは？

Q: 道総研のホームページで、林産試験場で働く研究支援職員の採用案内を見ました。どのような仕事なのか教えてください。

A: 研究開発の推進と成果の実用化は、研究職員だけの力で成し遂げられるものではなく、多くの専門的職種の人達の協力が必要です。研究支援業務は専門分野で高い技能を持つ人材による重要な業務です。

研究支援業務でも委託が可能なものについては民間への外部委託を進めていますが、特殊で精密さが要求される業務や計画変更による突発的な業務が多く、外部委託には限界がある状態です。

林産試験場の研究支援体制は、幅広い研究開発分野をカバーするために「製材・乾燥」・「合板」・「成形」・「木材加工」・「金属加工」(写真1)の五つの部門に分けられ、各部門で研究支援職員が業務を行っています。



写真1 各部門での研究支援状況

技術支援グループでは、年間400～500件に達する業務依頼にスピーディーかつ効率的に対応するために、「研究支援システム」を構築し、各研究支援職員の端末から業務の予定入力・完了報告ができるようにしています。また、大がかりな業務については各部門の研究支援職員が集まりチームを組んで対応する体制としています。

研究職員と研究支援職員の関係は、基本的には研究職員を中心とした研究開発業務に対するサポートですが、ただ単に研究職員に指示されたことを行う

のではなく、実用化にあたっての様々なアイデアの提供や作り手側からのアドバイスによる研究へのフィードバック等ができる関係を図っています。そのため技術支援職員には常に自分の専門知識や技量の向上や、情報収集を行っていく情熱が求められます。林産試験場では、研究支援職員に自身の視野を広げ見識を高めるための研修や各種技能の資格取得を奨励しています。

林産試験場の最近の研究支援職員の採用例ですと、平成27年度に「木材加工」部門の「木材加工及び家具、建具の製作に関する技術並びに基礎知識を有する者」1名を募集し採用しています。

主な業務は、加工試験棟(写真2)での木工機械の操作、各種試験体、部材などの製作(切削・加工・塗装・組立)、家具・建具等木製品及び建築材料の試作(写真3)ですが、さらにサンプリング・データ管理などの試験・調査補助業務や各種機械及び設備保守点検・整備・研削工具の調整などの機器整備業務、パソコンによるCAD操作・書類作成・データ入力などの業務も行います。



写真2 加工試験棟



写真3 木材加工業務

また、新規採用者に対しては様々な業務依頼に幅広く柔軟に対応できるように、木材加工部門以外の全ての部門の研修も行っています。

林産試験場が求めている人材は、自分の専門領域で高いレベルの技術力を持ち、更に幅広い対応力を持つ方です。そのためには相応の努力が求められますが、それだけやりがいの高い仕事だと思います。

当场では現在11名の研究支援職員が働いており、今後も適宜募集していく予定です。我々は意欲溢れる方と共に仕事をしていくことを楽しみにしています。その際には、多くの方の応募を期待しています。

(企業支援部 技術支援グループ 大西人史)